

9月5日

聖書 創世記19章1～16節

主のあわれみ

19:1 そのふたりの御使いは夕暮れにソドムに着いた。ロトはソドムの門のところにすわっていた。ロトは彼らを見るなり、立ち上がって彼らを迎え、顔を地につけて伏し拝んだ。 19:2 そして言った。「さあ、ご主人。どうか、あなたがたのしもべの家に立ち寄り、足を洗って、お泊まりください。そして、朝早く旅を続けてください。」すると彼らは言った。「いや、わたしたちは広場に泊まろう。」 19:3 しかし、彼がしきりに勧めたので、彼らは彼のところに向かい、彼の家の中に入った。ロトは彼らのためにごちそうを作り、パン種を入れないパンを焼いた。こうして彼らは食事をした。

19:4 彼らが床につかないうちに、町の者たち、ソドムの人々が、若い者から年寄りまで、すべての人が、町の隅々から来て、その家を取り囲んだ。

19:5 そしてロトに向かって叫んで言った。「今夜おまえのところにやって来た男たちはどこにいるのか。ここに連れ出せ。彼らをよく知りたいたのだ。」

19:6 ロトは戸口にいる彼らのところに出て、うしろの戸をしめた。

19:7 そして言った。「兄弟たちよ。どうか悪いことはしないでください。」

19:8 お願いですから。私にはまだ男を知らないふたりの娘があります。娘たちをみなの前に連れて来ますから、あなたがたの好きなようにしてください。ただ、あの人たちには何もしないでください。あの人たちは私の屋根の下に身を寄せたのですから。」 19:9 しかし彼らは言った。「引っ込んでいろ。」そしてまた言った。「こいつはよそ者として来たくせに、さばきつかさのようにふるまっている。さあ、おまえを、あいつらよりもひどいめに会わせてやろう。」彼らは口トのからだを激しく押しつけ、戸を破ろうと近づいて来た。 19:10 すると、あの人たちが手を差し伸べて、口トを自分たちのいる家の中に連れ込んで、戸をしめた。

19:11 家の戸口にいた者たちは、小さい者も大きい者もみな、目つぶしをくらったので、彼らは戸口を見つけるのに疲れ果てた。

19:12 ふたりは口トに言った。「ほかにあなたの身内の者がここにいますか。あなたの婿やあなたの息子、娘、あるいはこの町にいるあなたの身内の者をみな、この場所から連れ出さなさい。

19:13 わたしたちはこの場所を滅ぼそうとしているからです。彼らに対する叫びが【主】の前で大きくなったので、【主】はこの町を滅ぼすために、わたしたちを遣わされたのです。」

19:14 そこでロトは出て行き、娘たちをめぐらした婿たちに告げて言った。「立ってこの場所から出て行きなさい。【主】がこの町を滅ぼそうとしておられるから。」しかし、彼の婿たちには、それは冗談のように思われた。

19:15 夜が明けるころ、御使いたちはロトを促して言った。「さあ立って、あなたの妻と、ここにいるふたりの娘たちを連れて行きなさい。さもないと、あなたはこの町の咎のために滅ぼし尽くされてしまおう。」

19:16 しかし彼はためらっていた。すると、その人たちは彼の手と彼の妻の手と、ふたりの娘の手をつかんだ。——【主】の彼に対するあわれみによる。そして彼らを連れ出し、町の外に置いた。

9月5日

説教 主のあわれみ

とりなし、とりなしの祈りを学んでいます。

アブラハムは口トのために
必死のとりなしをしています。

とりなしとはどんなことか、
またとりなしの結果は何か
を学んでいきたいと思ひます。

ここから私たちも信仰を持って
真剣にとりなす器になっていきたいと
思います。

アブラハムが人の旅人の姿をした主に
必死のとりなしをしている間に
二人の旅人の姿をした天使は
ヘブロンから60キロの道を歩いて
夕暮れ時にソドムの町につきました。
ロトはソドムの町の門の所に座っていましたロト
は二人の旅人を見るなり
伏し拝んでしもべの家でお泊り下さいと
願った。

広場で寝るといふ旅人をしきりに勧めたので
ロトの家に泊まることにされた。

ロトは彼らに御馳走を作り
種を入れないパンでもてなした。

ロトはどんな動機で旅人をもてなしたのか。
旅人の姿をした天使と理解していたのか。
ソドムに滅びの罪の宣告に来た神の使いと知っ
てお迎えしたのか。

アブラハムの迎え方と
ロトの迎え方を
比較したいと思います。

アブラハム

18章3節 ご主人 主よ

3人の旅人なのに単数形。3人のうちの一人を
神と認識していた。

ロト

19章2節 ご主人 ご主人がた

二人の旅人、二人の商人と認識して
商売の取引をするために家に招いてもてなそうと
している

動機

18章アブラハム

主御自身が何かのメッセージをもって来てくださったと受け止めて、最高のもてなしをしている。20リトル以上の上等の小麦、美味しそうな子牛、牛乳、凝乳をアブラハム自身が取ってしもべに渡してもてなす。

主と主の使いを最上の料理で敬意を払ってもてなし、交わり、も言葉を聞こうとしている。

19章口の動機

口はソドムの町の門の所に座っていた。

門は商売の取引をする市場。

そこに見知らぬ旅人が来た。

商売のチャンスとこの旅人を他のソドム人を出し抜いて家に無理やり招いて商売をして利益を上げようとした。

2節のことばはアブラハムと同じであるがもてなした料理はパン種を入れない質素な料理であった。子牛も20リットルのパンも牛乳も凝乳も出していない。

その晩ソドムの人がロトの家に
押しかけて来た。

よそ者のくせに町の門に堂々と座って、
我々を差し置いて旅人を家に連れ込んで商売
をしようとしている。

その旅人を出せ。

その旅人はこの町に何しに来た、
警察のような、裁判官のような偉そうな顔をして
やってきた。

どこのどいつかよく知りたいのだ。

口トの対応。

19:8 お願いですから。私にはまだ男を知らないふたりの娘があります。娘たちをみなの前に連れて来ますから、あなたがたの好きなようにしてください。ただ、あの人たちには何もしないでください。あの人たちは私の屋根の下に身を寄せたのですから。」

口トの墮落しきった信仰、倫理観、道德観、
家族観が現れている。

娘を売春婦として売ってソドムの人に引き下
がっていただきたいと取引をしています。
旅人との商売で利益を上げたい魂胆。

ソドムの暴漢が戸を破って家の中に乱入
しそうになった時、旅人の姿をしたみ使いは
実力行使に入った。

手を差し伸べて口を家の中に入れた。
目つぶしを投げて、ソドムの暴徒たちの目が見
えないようにされた。

目つぶしは閃光かもしれません。

19:13 わたしたちはこの場所を滅ぼそうとしているからです。彼らに対する叫びが【主】の前で大きくなったので、【主】はこの町を滅ぼすために、わたしたちを遣わされたのです。」

ここで始めて、旅人は主によって使わされた御使いと名乗り、ソドムに対する裁き、滅亡という裁きの使命を果たすためにに來たと告知した。

彼らに対する叫びが主の前で大きくなった。

これは誰の叫びでしょうか。

ソドムの暴徒、犯罪の被害者の叫び。

不当な仕打ち、強いものの横暴。

奪われたもの、殺されたもの、強姦にあった者、
被害に会った者、不当な仕打ちを受けた者の
叫びが天に届いている。

正義の神は今も苦しめる者、不当な仕打ちを
受けた者の叫び、訴えを聞いておられる。

19:12 ふたりはロトに言った。「ほかにあなたの身内の者がここにいますか。あなたの婿やあなたの息子、娘、あるいはこの町にいるあなたの身内の者をみな、この場所から連れ出さない。

いい加減な信仰のロトであっても彼の信仰、アブラハムのとりなしの故に、一族は救いの恵みの機会が与えられています。

19:14 そこでロトは出て行き、娘たちをめとった婿たちに告げて言った。「立ってこの場所から出て行きなさい。【主】がこの町を滅ぼそうとしておられるから。」しかし、彼の婿たちには、それは冗談のように思われた。

ロトの娘の夫、あるいは婚約者、同居しているソドム人の男には冗談に聞こえた。

神の正義も、罪も、悪事も、不正も、裁きもたわごとにも聞こえてしまった。

19:15 夜が明けるころ、御使いたちは口トを促して言った。「さあ立って、あなたの妻と、ここにいるふたりの娘たちを連れて行きなさい。さもないと、あなたはこの町の咎のために滅ぼし尽くされてしまおう。」

夕方から夜が明ける時まで、天使は必死で口トとその家族を救い出そうとされた。

天使の熱心、情熱、粘り強さ、愛があふれています。これもみつかいのとりなしです。

19:16 しかし彼はためらっていた。すると、その人たちは彼の手と彼の妻の手と、ふたりの娘の手をつかんだ。——【主】の彼に対するあわれみによる。そして彼らを連れ出し、町の外に置いた。

一人の天使は口と口との奥様。

もう一人の天使は二人の娘。

手を引っ張って無理矢理

強制的にソドムの町から引っ張り出した。

この強制は主の哀れみであり

アブラハムのとりなしの恵みであります。

残念ながらアブラハムの祈った
10名はいませんでした。

アブラハムは毎日ロトの家族の
名前を挙げて祈っていたことでしょう。

指を折りながら、ロト、ロトの奥様。

長男、次男、長女、その連れ合い、
次女、その連れ合い、三女、四女、

この10名は主を信じ、礼拝をしているだろうと
一生懸命に祈っていました。

結果的にはかろうじて
神様のこと、お祈り、信仰、救いを
たわごと、冗談と思わずに
口トの所に来た御使いのことばを信じ、
裁きが来ることを信じて
口トの所に集まったのはたったの4人しかいません
でした。

19:29 こうして、神が低地の町々を滅ぼされたとき、神はアブラハムを覚えておられた。それで、ロトが住んでいた町々を滅ぼされたとき、神はロトをその破壊の中からのがれさせた。

アブラハムのとりなしの祈りのゆえ
ロトはかろうじて
救われました。

アブラハムが祈っていなかったのなら
ロトの家族はソドムの町中にいて
火と硫黄の中で滅亡していました。

弱い、小さな私たちであっても、家族のため、友のため、教会の兄弟姉妹、求道者のために祈りましょう。

一つの証し。

祈り